

江東区でもっとサッカーしよう  
江東区のサッカーを応援しよう  
江東区のスポーツを応援しよう

江東区だけをホームタウンとして  
2021年にJリーグ参入  
始めています地域貢献活動

# 江東ベイエリア・フットボール・クラブ

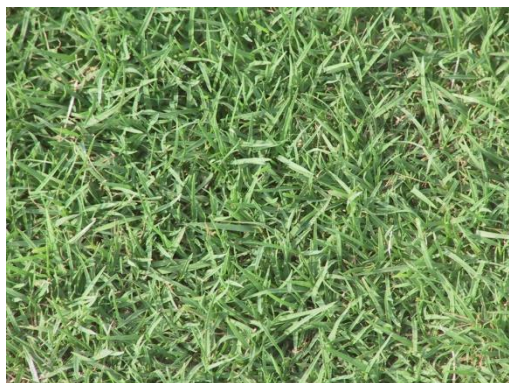
〒136-0075 東京都江東区新砂3-7-1 ベイエリア・グラウンド内  
ホームページ <http://www.bayarea-fc.com> メールアドレス [mail@bayarea-fc.com](mailto:mail@bayarea-fc.com)

2016年9月22日

## ベイエリア・グラウンドでの冬芝育成について

=ウインターオーバーシード=

### ☆ ベイエリア・グラウンドの天然芝の種類



夏芝：ティフトン419（張り芝）

アメリカ原産の暖地型西洋芝。バミューダグラスと言われる草種の一つ。日本芝に比べ、非常に繁殖力が強く、踏圧・擦り切れからの回復力が高い事が大きな特徴。Jリーグのスタジアム等スポーツ施設で多く使用されている。刈込高：15～25mm。耐暑性◎。耐寒性×。耐乾燥性◎。耐陰性×。耐踏圧性◎。



冬芝：コンフェティ3（種子）

寒地型西洋芝。夏芝を保護するウインターオーバーシード専用芝。秋に生育旺盛となり、冬も緑の葉を維持する。高温多湿に弱く夏に完全に枯れ、1年草のため翌年も新たに蒔種が必要。種を蒔いた後の生育も比較的早く（約1か月）緻密で芝質が良い品種。

### ☆ ウインター・オーバー・シード（冬芝育成）

冬季に枯れてしまう夏芝（暖地型）の上から、冬季にも緑を保つ冬芝（寒地型）の種子を蒔き、1年中、常緑に出来る。ウインター・オーバー・シード（冬芝育成）を行わず、秋季・冬季に夏芝を枯れたまま放置・使用しますと、夏芝の茎や根が寒風の中で露出され消耗し来春の回復期の発育が乏しくなってしまいます。冬季でも茎や葉が枯れなく緑濃い冬芝を育成する事は、夏芝の上に毛布を被せて保護する役割を担います。作物の二毛作のイメージです。

今回＝9月24日（土）25日（日）＝U-12（小学生チーム）保護者様にご協力いただきたい  
ウインター・オーバー・シード（冬芝育成）の作業内容

冬芝の種子は、長さ1センチにも満たず髪の毛ほどの細さです。種子を蒔く際は、偏りが無いように均一に蒔きます。均一に蒔いても、降雨や強風で偏る（流される）事を防ぐため、山砂を薄く被せます。厚く被せると生育を妨げてしまいます。種子を蒔くのはコーチングスタッフが行いますので、保護者様は、グラウンド入口に保管している山砂を一輪車で種子を蒔いた場所まで運んでいただき、靴底等で薄く均していただきます。

ベイエリアG全面で冬芝を育成するためには、**200～250kgの種子が必要**となります。誤植ではありません。200～250kgです。



### ☆ ベイエリア・グラウンドの天然芝育成の変移

次ページへ

江東区でもっとサッカーしよう  
江東区のサッカーを応援しよう  
江東区のスポーツを応援しよう

江東区だけをホームタウンとして  
2021年にJリーグ参入  
始めています地域貢献活動

# 江東ベイエリア・フットボール・クラブ

〒136-0075 東京都江東区新砂3-7-1 バイエリア・グランド内  
ホームページ <http://www.bayarea-fc.com> メールアドレス [mail@bayarea-fc.com](mailto:mail@bayarea-fc.com)

## ☆ バイエリア・グランドの天然芝育成の変移



最初はポット苗から夏芝（ティフトン）を育てました。ポットの数は一〇、〇〇〇を超えました。



ポットで約2か月間育てた夏芝を、グラウンドに等間隔に移植し、連結するまで水や肥料を与えて育てました。



グラウンドらしく天然芝が育つまで、約3～4年の月日を要しました。歴代の選手達の努力無くして成し得ない現在です。

2009年より取り組んでいるバイエリアGの天然芝生化は、当初は夏芝だけを育成してきました。

芝生には様々な種類があり、「和（日本）芝」と「西洋（洋）芝」に大きく分ける事が出来ます。また「西洋（洋）芝」の中には、「夏芝」と「冬芝」に区分される場合もあります。

公園や学校緑化で使用される芝生は、「和（日本）芝」の中の「野芝」や「高麗芝」が一般的で、冬に生育が停止（枯れる）し葉が黄色く変色します。また繁殖力や回復力が乏しいのも特徴です。

バイエリアGでこれまで育成してきた芝生は、「西洋（洋）芝」の中の「夏芝」で、アメリカ原産の暖地型西洋芝でバミューダグラスの一つの「ティフトン」という種類です。

この「ティフトン」は、日本芝に比べ、非常に繁殖力が強く踏圧、擦り切れからの回復力が強いのが大きな特徴で、その性質からJリーグのスタジアムや様々なスポーツの競技場で利用されています。

\* バイエリアGはJリーグのスタジアムと同じ「ティフトン」種を使用していますが、選手やコーチ・保護者の皆様のみで育成し、資金や管理頻度が乏しいため、公共施設からは見劣りしています。素人の手作りの芝生・グランドだからです。

Jリーグのスタジアム等が冬でも緑の芝生なのは、冬芝を育成しているからです。

「夏芝」が枯れる前（晩夏から初秋）に「冬芝」の種子を散布して育成する事を、ウインター・オーバー・シードといい、「夏芝」が冬眠している間に「冬芝」という毛布を掛けてあげるイメージです。

この「冬芝」でのウインター・オーバー・シードにより、冬の間の「夏芝」は土や砂が寒風で飛ばされ、地中の根が欠損される事を防ぎ、春先に元気に茎や葉を伸ばしていきます。

「冬芝」によるウインター・オーバー・シードは、「夏芝」の冬眠を守るためだけでなく、冬季期間中でも緑濃く葉茎が長い「夏芝」にも劣らない芝生を楽しんでいただけます。

バイエリアGで使用する冬芝は、「コンフェティ」というウインターオーバーシード専用開発されたペレニアルライグラスで、従来の品種よりも耐暑性が低く、春の暖地型への更新作業もスムーズに行えます。また種を蒔いた後の生育も比較的早く、緻密で芝質も良い品種です。



これからも、専門業者に一切頼らない手作しながらも、  
「こころ」と「からだ」と「環境」に優しい都心には珍しい天然芝のグラウンドを育てていきます。  
皆様のご協力をお願いいたします。